

交 通/専門科目

科目名	サブタイトル	担当教員	配置学年
交通概論A	交通の基礎知識を学び、 交通を考える	栗田 善吉	1 年次前期
講義の目的	本講義では、交通とは何か、交通の歴史およびこれから本格的に交通を学ぶ上で必要となる基礎理論等について学習し、交通論に親しんでもらうことが目的です。さらに、日常生活を送る上で、様々な交通問題に直面すると思いますが、そうした問題の解決策を考えてみようという意欲を掻き立てることも講義の目的です。		
目標	交通に関して、専門的に学ぶ上での基礎知識を身につける。		
講義内容	私たちの生活にとって身近で欠かすことのできない交通・運輸について現状をしっかりと理解することで、交通にまつわる様々な問題が浮き彫りになり、その解決策に興味を湧くことでしょう。本講義では、交通・運輸についての専門的な学習が可能になるよう、必要最小限の経済学の理論を分かりやすく説明しながら、交通についての基礎知識を学んでいきます。		
講義スケジュール	第1講	オリエンテーション（講義の内容や進め方、留意点の説明）	
	第2講	交通の歴史：交通の起源から街道の整備、鉄道の発明まで	
	第3講	交通の歴史：自動車、航空機の発明から現代の交通まで	
	第4講	交通サービスの供給と需要（1）：交通サービスの特性と供給について	
	第5講	交通サービスの供給と需要（2）：交通サービスの需要と交通機関選択行動について	
	第6講	市場の理論：一般の市場と交通市場の特性	
	第7講	企業の費用構造（1）：一般的な企業の費用構造	
	第8講	企業の費用構造（2）：交通事業者の費用構造の特徴	
	第9講	価格の理論（1）：一般的な財貨はどのようにして価格が決まるか。	
	第10講	価格の理論（2）：運賃・料金はどのようにして決定されるか。	
	第11講	価格の理論（3）：各交通機関の運賃設定方式と経営戦略	
	第12講	輸送統計の見方と我が国の交通市場の動向	
	第13講	交通事故と安全（公共交通機関の事故と対処法および安全対策）	
	第14講	交通と環境（交通機関別の環境への影響と対策事例）	
	第15講	まとめと総復習	
指導方法	プリントを配布すると共に、パワーポイントによるスライドを活用しながら講義を進めます。配布するプリントは不完全な内容であり、重要事項について講義を受けながら完全なノートを作成する形式とします。		
授業外学習	本学では、経済・経営面から交通の問題を学習する科目が多くなっています。本講義も経済学の知識を必要とします。また、経済学では基本的な数学の知識が必要で、誰でも理解できるように説明しますが、中学生の時に学習した「関数」について、事前に復習するとともに、講義の後には、理解できなかったところはどこか必ず把握し、次回、質問できるようにしておいて下さい。		
成績評価方法	評価の方法は、本試験（筆記試験）80%、平常点（レポート）20%で評価します。		
テキスト	毎回、プリントを配布しますので、特に指定しません。		
書籍参考	田邊勝巳著「交通経済のエッセンス」、有斐閣、2017		
事項記	交通市場は常に変化しています。国土交通省のWebサイトに時々アクセスして、自ら最新の情報を入手することを心掛けて下さい。		

科目名	サブタイトル	担当教員	配置学年
交通概論B	交通の基礎知識を学び、 交通を考える	栗田 善吉	1年次後期
講義の目的	本講義では、交通に関する問題にはどのようなものがあるのか、また、国や地方公共団体、さらには交通事業者がそれぞれ抱える問題を解決するためにどのような取り組みを行っているのか、具体的な事例を基に理解していきます。		
到達目標	様々な交通問題に対して、自ら考える知識を身につける。		
内容講義	本講義では、交通産業と政府のかかわりを踏まえた上で、大都市、地方都市それぞれの抱える交通問題を整理し、その解決のために政府、事業者がどのような取り組みを行っているのか、財源問題も含めて解説します。		
講義スケジュール	第1講	オリエンテーション(講義の内容と進め方)	
	第2講	交通産業と政府の係り(各種規制と規制改革の推移)	
	第3講	大都市交通の現状と課題	
	第4講	大都市交通市場に関する交通政策	
	第5講	大都市交通市場の問題解決に向けた事業者の取り組み(鉄道事業)	
	第6講	大都市交通市場の問題解決に向けた事業者の取り組み(道路問題)	
	第7講	地方交通の現状と課題	
	第8講	地方交通市場に関する交通政策	
	第9講	地方交通活性化に向けた事業者の取り組み	
	第10講	地方鉄道を護る沿線住民の取り組み事例の紹介	
	第11講	地方公共交通に対する補助制度と合意の形成	
	第12講	地方鉄道の経営形態(上下分離)	
	第13講	今後の都市交通、地域交通に関するディスカッション	
	第14講	今後の交通市場の動向～国土交通省の交通政策のポイント～	
	第15講	まとめと総復習	
指導方法	プリントを配布すると共に、パワーポイントによるスライドを活用しながら講義を進めます。配布するプリントは不完全な内容であり、重要事項について講義を受けながら完全なノートを作成する形式とします。さらに、様々な交通問題に対して積極的に意見を述べてもらいます。		
授業外学習	最近、赤字ローカル鉄道の廃線に向けた話題がニュースになっています。こうしたニュースについて、日頃から接して、なぜ、廃止なのか、今後どうなるのか、について情報を取得する癖を付けて下さい。		
成績評価方法	評価の方法は、本試験(筆記試験)80%、平常点(レポート)20%で評価します。		
ステキ	毎回、プリントを配布しますので特に指定しません。		
書籍参考	田邊勝巳著「交通経済のエッセンス」、有斐閣、2017		
事項特記	日頃から、交通に関する問題意識を持って、どのような解決策があるか、自分なりに考える習慣を身につけておいて下さい。		

科目名	サブタイトル	担当教員	配置学年
鉄道システム論	鉄道業界で活躍するための基礎知識	前橋 栄一	2年次後期
講義の目的	<p>鉄道事業の本質は、輸送というサービスを安全第一に提供することにあるが、そのサービスを実現するための手段が鉄道システムである。鉄道システムは、車両、土木（軌道、構造物）、電気（信号システム、電力設備）、運転（輸送計画など）のハードウェア・ソフトウェア各要素に加え、さらに運転係員などのヒューマンウェアをも含めた非常に大規模で複雑なシステムであり、これらのシステム概要を学ぶ。</p>		
到達目標	<p>将来、鉄道業界に携わるにあたり、自らが所属する部門以外についての基礎的な事柄も幅広く習得することによって日常業務の円滑な遂行はもとより、広い視点に立った現状改善の推進に活躍できる基礎力をつけることを目標とする。 外面的な鉄道観察でなく、内面的な視野での鉄道システム理解を持たせる。</p>		
講義内容	<p>本講座では、鉄道業界人としての鉄道総研における研究開発体験の知見を活かし、大規模で複雑なシステムである鉄道について、トラブルや開発事例や背景等、さまざまな鉄道の構成要素について概説するほか、鉄道システムの歴史、特殊な鉄道システム等についても取り上げる。特に事故や災害防止等の安全構築のための取り扱いや考え方の理解に力を入れる。</p>		
講義スケジュール	第1講	本講義の概要・進め方 鉄道システムの概論①	
	第2講	鉄道システムの概論②	
	第3講	鉄道システム各論①（土木・軌道）	
	第4講	鉄道システム各論②（土木・分岐器・材料）	
	第5講	鉄道システム各論③（土木・保安、保線）	
	第6講	鉄道システム各論④（土木・土木構造物等）	
	第7講	鉄道システム各論⑤（電気・信号保安）	
	第8講	鉄道システム各論⑥（電気・通信設備）	
	第9講	鉄道システム各論⑦（電気・電路）	
	第10講	鉄道システム各論⑧（電気・変電、配電）	
	第11講	鉄道システム各論⑨（車両/運転・原理と基礎、種類、台車構造等）	
	第12講	鉄道システム各論⑩（車両/運転・ブレーキ、運転保安装置、車体構造）	
	第13講	鉄道システム各論⑪（車両/運転・特殊鉄道、保守管理）	
	第14講	鉄道システム各論⑫（車両/運転・運転輸送計画）	
	第15講	まとめ（前講復習）	
方法指導	<p>テキストを基本とした授業とし、毎回授業終了時に小テストを実施し、次回授業で学生指命による答え合わせを行う。理解度が低い場合には授業で復習を行う。動画や資料画像などの活用のほか、共有ドライブに復習用資料を格納して学生が活用可能とする。</p>		
授業外学習	<p>希望者には鉄道系博物館の解説見学を実施する。図書館の所蔵資料などを調査に活用するような自習課題も準備するが、日頃から疑問に思う事項や用語はネット情報を盲信せずに文献調査などに取り組むのが理想である。</p>		
成績評価方法	<p>平常点（授業終了時の小テスト）50%、本試験（筆記試験）50%による。自習課題の内容は期末試験（本試験）にも反映する。</p>		
テキスト	<p>「わかりやすい鉄道技術 1（鉄道概論・土木編）」、「わかりやすい鉄道技術 2（鉄道概論・電気編）」、「わかりやすい鉄道技術 3（鉄道概論・車両・運転編）」：鉄道総研編 以上3冊を各自（一財）研友社から購入</p>		
書籍参考	<p>「鉄道のしくみと走らせ方」昭和鉄道高校（かんき出版）、「鉄道技術の日本史」小島英俊（中公新書）、「鉄道用語辞典」鉄道総研編（丸善）、「鉄道メカニズム探求」辻村功（JTB）、「電車のしくみ」宮本昌幸（ナツメ社）、「新幹線テクノロジー」佐藤芳彦（山海堂）</p>		
事項特記	<p>交流のある短大の鉄道界OB等からの近況や業界情報なども話題提供する。事故や問題が発生した場合には極力解説を行う。</p>		

科目名	サブタイトル	担当教員	配置学年
鉄道運転論	列車の運行を支えるテクノロジー	藤原 浩史	2年次前期
講義の目的	「鉄道の運転」「列車の運行」というと、運転士の列車操縦テクニックがまず思い浮かぶだろう。しかし運転士による列車操縦であっても、現在世界的に導入が進んでいる自動運転であっても、その基盤はテクノロジー(鉄道界共通の理論や仕組み)にある。鉄道に限らないが、テクノロジーの理解なくしては、テクニックを真に身につけることはできず、また自動化などの潮流にも対応できない。本科目では、短期大学にふさわしく、どの鉄道事業者でも通用する基礎理論として、列車運行の基盤となるテクノロジーについて理解を深めることを目的とする。		
到達目標	(1)列車運行計画やダイヤ乱れ時対応などに関する基礎理論を習得する。(2)列車運行に密接に関係する信号保安設備についての基礎理論を習得する。(3)列車の走行に関する物理的な基礎理論を習得する。		
講義内容	本科目では、鉄道界に共通な列車運行関連テクノロジーからいくつかの特徴的な事項を取り上げて解説する。具体的には、まず学生諸君の関心の高いと思われる列車運行計画(列車ダイヤ等)に関連する理論から始め、次にダイヤ乱れ時の運転整理に関する理論を取り上げる。さらに列車運行時における信号保安設備の動作の仕組みを解説し、最後に、列車の走行に関する物理学的基礎理論を定性的に解説する。		
講義スケジュール	第1講	はじめに - 鉄道の運転に関して	
	第2講	輸送計画(1) - 列車運行計画(列車ダイヤ)	
	第3講	輸送計画(2) - 時隔、基準運転時分	
	第4講	輸送計画(3) - 車両運用計画、乗務員運用計画、構内作業計画	
	第5講	運行管理(1) - 小・中規模ダイヤ乱れ時の運転整理	
	第6講	運行管理(2) - 大規模ダイヤ乱れ時の運転整理	
	第7講	信号保安設備(1) - 鉄道信号、閉そく装置、軌道回路	
	第8講	信号保安設備(2) - 鎖錠、連動、連鎖	
	第9講	信号保安設備(3) - 連動図表	
	第10講	信号保安設備(4) - 連動装置	
	第11講	列車走行の特性(1) - 粘着力、引張力	
	第12講	列車走行の特性(2) - 出発抵抗、走行抵抗	
	第13講	列車走行の特性(3) - トンネル抵抗、曲線抵抗、勾配抵抗	
	第14講	列車走行の特性(4) - 等価抵抗、均衡速度	
	第15講	鉄道の運転に関する最新のトピック	
指導方法	講義形式を中心とする。今年度は、配付資料は図表を主体とし、詳細の解説は講義中に与えるので、確実にノートを取ることが求められる。毎講義終了時に授業内容確認のための小テストを実施する。講義に集中しなければ小テストに対応できないと心得ること。現代社会で必要な能力の一つである「自分の言葉で、誰にでも分かり易いように文章を書く力」の涵養も期待する。		
授業外学習	事前学習として、普段鉄道を利用する際などに列車の運行についての疑問点や関心のある点をまとめておくこと。事後学習として、講義で学んだことがどのように実際の鉄道で実現しているかを、鉄道を利用する際に注意して観察し、メモしてまとめておくこと。また、講義中の説明は時間の制約から必ずしもすべての内容を網羅できないため、各自で関連書籍などを見て補足すること。		
成績評価方法	本試験(筆記試験を実施するが、今年度は計算問題は出さない予定である。)70%、平常点(講義各回の小テストを合計する。)30%		
ステキ	今年度はテキストは使用せず、各講義時に配付する資料に基づいて解説する。		
書籍参考	富井規雄、『列車ダイヤのひみつ』、成山堂書店、2005。電気学会、『鉄道ダイヤ回復の技術』、オーム社、2010。日本鉄道運転協会、『わかりやすい!運転操縦実務』、同協会、2015。同協会月刊誌『運転協会誌』。その他、講義中に紹介する。		
事項特記	担当教員は、本学教員では稀有となってしまった鉄道界経験者(鉄道総合技術研究所在籍中)であり、これまで信号、安全管理関係などの部署に在籍してきた。最近では国際標準化など海外の鉄道関係者との共同活動も行っている。折に触れ関連情報も紹介したい。		

科目名	サブタイトル	担当教員	配置学年
交通経済学	経済学の視点から交通問題を考える	栗田 善吉	2年次前期
講義の目的	人の移動や貨物の輸送といった交通は、私たちの生活に欠くことのできない活動です。しかしながら、道路や鉄道の混雑、過疎地の公共交通の衰退、環境問題等、交通には様々な問題がつきものです。なぜ交通には問題が生じるのか、本来はどうあるべきか、こうした疑問について、本講義では経済学の視点から考えていきます。		
到達目標	経済学の視点から交通の問題を考えると、これが正解、という明確な考え方はありません。しかしながら、ある考え方（経済学の理論）に沿って交通問題を自ら考え、意見を述べられるようになることが、本講義の目的です。		
講義内容	私達が日常行う消費活動や生産活動の多くには交通が関わります。言い換えれば、経済活動と交通は切っても切れない関係にあると言えます。本講義では、交通サービスの需要（移動）と交通サービスの供給（輸送）に焦点を当て、初歩的な経済学の考え方をを用いて、交通にまつわる様々な事象や問題を考えていきます。		
講義スケジュール	第1講	交通経済学ではどのようなことを学ぶのか、ガイダンスと講義の進め方について	
	第2講	やさしい経済学：①消費者行動の理論	
	第3講	やさしい経済学：②企業行動の理論	
	第4講	交通サービスの特性と交通サービスの需要	
	第5講	交通事業者の費用特性と交通サービスの供給	
	第6講	運賃理論と運賃政策	
	第7講	市場の分類と交通市場の特性	
	第8講	交通と政府の関係（規制と規制緩和）	
	第9講	規制緩和の理論的根拠	
	第10講	交通と環境規制	
	第11講	交通事業者への補助制度	
	第12講	内部補助と公平性の問題	
	第13講	交通ネットワークについて	
	第14講	さらに学習を深めるためのポイントについて	
	第15講	まとめと総復習	
方法指導	プリントを配布すると共に、パワーポイントによるスライドを活用しながら講義を進めます。配布するプリントは不完全な内容であり、重要事項について講義を受けながら完全なノートを作成する形式とします。		
授業外学習	交通経済学は、経済学の応用分野ですので、基本的な経済学の知識が必要です。初歩的な経済学のテキストを事前に目を通し、講義を受けて関連分野を復習するよう心掛けて下さい。		
成績評価方法	評価の方法は、本試験（筆記試験）80%、平常点（レポート）20%の割合で評価します。		
ステキ	毎回、プリントを配布しますので特に指定しません。		
書籍参考	竹内健蔵著、『交通経済学入門』（新版）、有斐閣、2018		
事項記	基本的な経済学の考え方については、極力、平易に説明しますが、上述の授業外学習をしっかりと行って下さい。		

科目名	サブタイトル	担当教員	配置学年
自動車交通論	路線バスを中心として	湯田 聡	2 年次前期
講義の目的	自動車交通は、今日の日常生活、経済活動にとって不可欠なまでに普及しています。特に、第二次世界大戦後、高度経済成長の過程を経て自家用車が広く普及し、今や「一人一台」に近づく勢いです。このようなモータリゼーションは、鉄道輸送が独占していた陸運輸送にも大きな変化をもたらし、トラック貨物輸送も乗合バスも、様々な工夫を重ねながらその方向性を模索しています。特に地方では、地域の足の確保、高齢者や学生の足をどう確保していくかという課題を考察します。		
到達目標	旅客自動車運送事業の歴史と現状を学び、この事業の進むべき方向性を模索できるようになること。		
講義内容	<p>① 「旅客自動車運送事業運輸規則」の概説を行います。バスやタクシーを利用して見聞する事柄は、大半がこの規則に網羅されているので、興味深い内容になると考えます。</p> <p>② バスが取り上げられた新聞記事を読み、バスと社会との関わりを考察します。</p> <p>③ バスが登場する資料文献などを通じて、昭和後期以降のバスの歴史を概観します。</p>		
講義スケジュール	第1講	オリエンテーション～授業概要や運営方法等の説明	
	第2講	日本の経済成長とモータリゼーション	
	第3講	道路運送法の概要と規制緩和政策の進展	
	第4講	乗合バス事業について（1）一般乗合バス	
	第5講	乗合バス事業への公的関与（補助など）	
	第6講	乗合バス事業について（2）高速乗合バス	
	第7講	「ツアーバス」の登場と新高速乗合バス	
	第8講	乗合バス事業者の実際（1）～運転業務を中心に	
	第9講	乗合バス事業者の実際（2）～運行管理業務を中心に	
	第10講	貸切バス事業規制緩和の影響	
	第11講	タクシー事業の概要	
	第12講	過疎地域での自家用有償運送（白ナンバーの福祉タクシー）	
	第13講	バス事業・タクシー事業での技術革新、さらなる安全性の確保	
	第14講	今後の自動車交通の課題（貨客混載輸送、自動運転自動車、電気自動車・燃料電池車、運転者確保など）	
	第15講	まとめ	
方法指導	基本的には講義形式で行いますが、受講者にも積極的な発言を求めるなど、参加型の授業にしたいと考えます。具体的な事例を多用して、わかりやすく解説します。		
授業外学習	事前学習としては、日常生活の中で、特に路線バスを積極的に観察するように心がけて下さい。そして気がついたことや疑問に思ったことをメモに残して授業に臨んで下さい。事後学習としては、授業で学んだことを参考文献などで調べ、理解や考察を一層深める努力をして下さい。		
成績評価方法	本試験の結果と平常点評価を総合して行います。その割合は本試験（筆記試験）50%、平常点（小テスト）5%、平常点（授業内課題）5%、平常点（講義参加姿勢）40%とします。3分の2以上出席しなければ評価対象としません。		
テキスト	テキストはありません。必要な資料は授業中に配布します。		
書籍参考	運行管理者基礎講習用テキスト法令集旅客編第15版（平成30年4月）独立行政法人自動車事故対策機構		
事項記			

科目名	サブタイトル	担当教員	配置学年
交通環境論	環境政策・環境経営論からみた交通産業	笠井 文雄	2年次後期
講義の目的	鉄道、自動車、航空などの交通産業は、あらゆる場面で環境問題に密接に関わっています。一言で交通産業に関わる環境問題と言っても、温室効果ガスの排出、大気汚染、騒音など多岐にわたっており、それぞれの問題の対策には、個々の原因や背景を理解する必要があります。本講義では、環境政策論や環境経営論の基礎概念をベースとして、交通産業をとりまく環境問題を包括的に理解してもらいます。		
到達目標	本講義では、以下の三点を主な到達目標とします。 ① 社会人として知っておくべき環境政策・環境経営に関する基礎概念を身につけること。 ② 交通産業における環境対策について正確に理解すること。 ③ 企業の環境対策に関する自分なりの見解を持てるようになること。		
内容講義	本講義では、交通産業における環境問題に関する重要概念を解説していきます。また、毎回、鉄道事業を中心とした交通関連企業を取り上げ、環境問題への取組事例を紹介していきます。		
講義スケジュール	第1講	オリエンテーション（授業の進め方、講義計画等の説明）	
	第2講	環境政策1 公害対策から環境対策への変遷	
	第3講	環境政策2 政策手段としての規制・課税・補助金	
	第4講	環境政策3 気候変動・温暖化対策と温室効果ガス排出取引	
	第5講	環境政策4 交通事業とESG投資・グリーン調達・環境影響評価	
	第6講	環境経営1 環境報告書とCSR報告書	
	第7講	環境経営2 国際規格と外部認証制度	
	第8講	環境経営3 環境会計と環境経営指標	
	第9講	交通の大気汚染問題1 自動車排出ガス規制と技術の進展	
	第10講	交通の大気汚染問題2 モーダルシフト政策	
	第11講	交通のエネルギー問題1 自動車の事例	
	第12講	交通のエネルギー問題2 鉄道の事例	
	第13講	交通のエネルギー問題3 航空の事例	
	第14講	交通の騒音問題 鉄道と航空の事例	
	第15講	まとめ	
方法指導	プリントを配布するとともに、パワーポイントによるスライドを用いた講義を中心に行います。		
授業外学習	予習は必要ありませんが、早い段階から最終課題であるレポートの準備が必要となります。具体的には、各自で企業の取組事例を調べ、自分なりに文章としてまとめることが求められます。		
成績評価方法	本試験（レポート）80%、平常点（授業内での提出物）20%		
テキスト	特に指定しません。必要に応じて資料を配布します。		
書籍参考	環境省編『環境白書』。このほか、講義中に随時紹介します。		
事項記	なし		

科目名	サブタイトル	担当教員	配置学年
交通需要論	人はなぜ移動し、いかにして交通手段を選択するのか	栗田 善吉	2年次後期
講義の目的	本講義では、交通需要とはどのような特性を持った需要なのか、他の消費財に対する需要と、どのような点が異なるのかについて理解することが第一の目的です。次いで、人はなぜ移動するのか、移動する際にどのような基準で移動手段である交通機関を選択(需要)するのか、利用者の意思決定メカニズムについて理解を深めることが第二の目的です。さらに、しばしば交通需要予測が行われますが、その目的と意義について理解してもらいます。		
目標到達	これからの交通ネットワークの整備について、その是非およびどのような点を重視して整備したらよいか、自ら考えられる力を身につける。		
講義の内容	今や、インターネットを通じて、買い物や会議ができる環境が整えられ、移動しなくても生活やビジネスの面で用事が足りる場面も見受けられます。しかしながら、いかに通信手段が発達しても、移動なくして事が済まないこともあります。人はなぜ移動するのか、また、移動する際にどのような交通機関を選択するのかについて、基礎的な理論を踏まえながら、分かりやすく説明していきます。さらに、受講生の関心の高い交通問題についてテーマを設定し、ディスカッションを行います。		
講義スケジュール	第1講	オリエンテーション(講義の進め方、留意点、講義内容等の説明)	
	第2講	交通サービスの需要について	
	第3講	交通需要発生メカニズム(なぜ人は移動するのか)	
	第4講	交通目的(移動目的)の種類(都市圏交通、都市間交通)	
	第5講	交通需要統計(旅客輸送量統計)と用語、見方について(鉄道、バス)	
	第6講	交通需要統計(旅客輸送量統計)と用語、見方について(タクシー、航空)	
	第7講	交通機関選択要因	
	第8講	移動に伴う費用と時間価値の概念Ⅰ(時間価値とは)	
	第9講	移動に伴う費用と時間価値の概念Ⅱ(時間価値と交通機関選択要因の関係)	
	第10講	交通需要予測について	
	第11講	交通需要の変動要因について	
	第12講	交通需要管理政策	
	第13講	交通問題に関するディスカッション(例:都市圏交通)	
	第14講	交通問題に関するディスカッション(例:地域交通)	
	第15講	まとめと総復習	
方法指導	プリントを配布すると共に、パワーポイントによるスライドを活用しながら講義を進めます。配布するプリントは不完全な内容であり、重要事項について講義を受けながら完全なノートを作成する形式とします。		
授業外学習	交通需要は国内景気動向の変化と密接な関係にあります。国内経済の動向について、景気が良くなっているのか悪くなっているのか、ニュースや新聞等を通して日頃から関心を持って下さい。		
成績評価方法	評価の方法は、本試験(筆記試験)80%、平常点(ディスカッション時の意見をまとめたレポート)20%で評価します。		
ステキ	毎回、プリントを配布しますので、特に指定しません。		
書籍参考	山内弘隆・竹内健蔵著「交通経済学」、有斐閣、2002		
事項記	交通統計、特に旅客輸送量の統計に慣れ親しむよう、心掛けて下さい。		

科目名	サブタイトル	担当教員	配置学年
交通事業論	交通事業・交通システムの 今を深く理解する	藤井 大輔	1 年次後期
講義の目的	私たちの日常生活に関わる交通事業は、鉄道・バス・タクシー・航空・船舶とさまざまな形で供給されている。これらの交通事業や交通システムについて、これらの置かれた経営環境などの背景を含めて、現状がどうなのか、鉄道・バス・タクシー・航空・船舶、輸送形態ごとに事業を概観する。この講義を通じて、交通事業への理解を深め、交通に関する基礎的な専門的知識を習得することを目的とする。		
到達目標	鉄道に限らず、わが国の交通事業全般について、これらの現状に対する理解を深める。		
講義内容	鉄道やバス、タクシー、航空、船舶とさまざまな交通モードで供給されている交通事業について、これらのモード別に現状をひもといていく。そして、交通政策に関わる整備新幹線と並行在来線の枠組みや、軌陸両用車 (DMV)、ライトレール (LRT)、バス高速輸送システム (BRT) など比較的新しい交通システムについても解説し、これからの交通事業が今後、どう展開されていくのかを考える。		
講義スケジュール	第 1 講	交通とは何か	
	第 2 講	旅客・貨物交通の特性	
	第 3 講	交通事業者の経営形態と公的関与	
	第 4 講	交通事業の現状 (1) : 幹線鉄道旅客輸送事業	
	第 5 講	交通事業の現状 (2) : 都市圏鉄道旅客輸送事業	
	第 6 講	交通事業の現状 (3) : 都市間バス輸送事業	
	第 7 講	交通事業の現状 (4) : 国内線航空旅客輸送事業	
	第 8 講	交通事業の現状 (5) : 鉄道貨物輸送事業	
	第 9 講	交通事業の現状 (6) : トラック貨物輸送事業	
	第 10 講	交通事業の現状 (7) : 国内線航空貨物輸送事業	
	第 11 講	交通事業の現状 (8) : 内航海運輸送事業	
	第 12 講	新しい交通事業システム (1) : リニア・LRT	
	第 13 講	新しい交通事業システム (2) : バス高速輸送システム (BRT) ・自動運転自動車	
	第 14 講	自家用福祉有償運送	
	第 15 講	まとめ : これからの交通事業	
方法指導	本試験だけでなく、課題レポートも課して、交通事業について理解を深めていく。		
授業外 学習	初回を除いて、講義終了前に次回の予告を説明するので、その予告に基づいて、参考書に挙げた書籍などで未習の用語などを理解しておくことを事前学習とする。また、事後学習は、講義で取り上げた事例以外の事例について自分で調べ、まとめることを通じて、より交通事業への理解を深めていく。		
成績評価 方法	本試験 (筆記試験) 60%、平常点 (レポート) 40%、計 100% で成績評価する。		
ステキ	使用しない。毎回、レジュメ (プリント) を配布する。このレジュメはファイルに綴じておくのが望ましい。		
書籍 参考	日本交通学会編、『交通経済ハンドブック』、白桃書房、2011 年。竹内健蔵、『交通経済学入門』 (新版)、有斐閣、2018 年。藤井彌太郎監修・中条潮・太田和博編、『自由化時代の交通政策 現代交通政策 2』、東京大学出版会、2001 年。		
事項 特記	1 年次前期に「交通概論 A」の単位を取得しているか、1 年次後期に「交通概論 B」を履修しているのが望ましい。ただし、これら科目の履修をこの科目履修の条件としない。		

科目名	サブタイトル	担当教員	配置学年
交通英語A	英語で説明しよう	大槻 忠史	2年次前期
目的	将来、鉄道をはじめとした交通の現場で活躍するための英語の応用・実践力をつけることを目的とする。		
到達目標	上に記した目的を達成するために、(1)英語での基本的なコミュニケーション術を学ぶこと、(2)駅や車内で用いることが想定される表現を学び、使いこなせるようになること。		
内容	比較的易しい語彙と表現を用いて、鉄道を中心とする交通案内に関わる英語の基礎を学ぶ。		
講義スケジュール	第1講	イントロダクション	
	第2講	英会話の基礎表現 (1) あいさつ	
	第3講	英会話の基礎表現 (2) 自己表現	
	第4講	英会話の基礎表現 (3) 知っておきたい単語・表現や数字表現など	
	第5講	復習・小テスト (1) 基礎確認	
	第6講	交通英語の実際を学ぶ (1) 駅構内での英語表記	
	第7講	交通英語の実際を学ぶ (2) 車内での英語表記	
	第8講	交通英語の実践演習 (1) 駅での案内	
	第9講	交通英語の実践演習 (2) 切符の購入	
	第10講	交通英語の実践演習 (3) 乗換案内	
	第11講	復習・小テスト (2) 応用確認	
	第12講	社会で求められる交通英語：現場での活躍に向けて (1) 現状の分析	
	第13講	社会で求められる交通英語：現場での活躍に向けて (2) 分析に基づき、対策を考える	
	第14講	まとめと想定演習 (1) 想定スキットを作成する	
	第15講	まとめと想定演習 (2) 想定スキットを演じ、議論する	
方法指導	講義と講義内容を実際に使う機会を設けることで、身につくようにする。駅や車内、路線図などで用いられる実際の表記なども用いる。また必要に応じて、映像資料も使用する。		
授業外学習	授業前に指定箇所を予習した後、分からない単語を調べ、文法事項について忘れた箇所がある場合は復習しておくこと。また事後学習には、文法や表現、語彙を意識しながら毎日少しずつ時間をとって繰り返し声に出して読むこと、そして、それらが実際の交通機関でどのように用いられているのかを考察することで、定着する。		
成績評価	本試験(筆記試験)50%、平常点(グループワーク)30%、平常点(小テスト)20%。		
テキスト	井口紀子『1 から出直し書き込み式英会話 BOOK』成美堂出版、2008年 その他、プリント教材や資料などを配布する。		
書籍	特に指定しない。授業内で、適宜紹介する。		
事項	授業に集中するのはもちろんのこと、学んだ表現を毎日少しでも時間をとって反復練習し、間違いを恐れずに実際に用いるように心がけて欲しい。あわせて、普段利用する交通機関で用いられる英語の表記やアナウンスにも注意してほしい。		

科目名	サブタイトル	担当教員	配置学年
交通英語B	英語で説明しよう：応用編	大槻 忠史	2年次後期
目的	将来、鉄道をはじめとした交通の現場で活躍するための英語の応用・実践力をつけることを目的とする。		
到達目標	前期で学んだ基礎的な表現を用いつつ、(1)相手の立場に立った英語での対応・表現ができるようになること、(2)状況に応じて過不足なく正確に英語で対応・表現ができるようになること。		
内容	前期の応用・実践編として、諸外国の鉄道を中心とする交通機関について、日本との違いを意識しつつ考察することで、どのような案内をすればより相手に分かりやすいのかを議論し、学んでいく。		
講義スケジュール	第1講	イントロダクション	
	第2講	交通英語の基礎表現の確認と補足 (1) 遅延や事故時の対応	
	第3講	交通英語の基礎表現の確認と補足 (2) 交通系 IC カードと案内	
	第4講	交通英語の基礎表現の確認と補足 (3) 鉄道以外(バスや飛行機など)	
	第5講	実践力をつけるために：外国人利用者の目線を考える	
	第6講	実践演習 (1) 日本の交通案内の英語表記を考察する：大都市圏	
	第7講	実践演習 (2) 日本の交通案内の英語表記を考察する：地方部	
	第8講	実践演習 (3) 日本の交通英語について特徴や問題点を議論する	
	第9講	実践演習 (4) 海外の交通案内の英語表記：北米を中心に	
	第10講	実践演習 (5) 海外の交通案内の英語表記：ヨーロッパを中心に	
	第11講	実践演習 (6) 海外の交通案内の英語表記：アジア、オセアニア	
	第12講	実践演習 (7) 海外の交通案内の英語表記：ロシア	
	第13講	実践演習 (8) 海外の交通英語について特徴や問題点を議論する	
	第14講	実践演習 (9) 相手の立場に立ったより分かりやすい案内を議論する	
	第15講	まとめと想定演習 想定スキットを演じ、議論する	
方法指導	講義中に講義内容を実際に使う機会を設けることで、身につくようにする。後期では、特に web や映像資料を用いて日本と海外との交通事情を比較・考察することを通して、より実践的な英語力を習得することに重点を置く。		
授業外学習	授業前に指定箇所を予習した後、分からない単語を調べ、文法事項について忘れた箇所がある場合は復習しておくこと。また事後学習には、文法や表現、語彙を意識しながら毎日少しずつ時間をとって繰り返し声に出して読むこと、そして、それらが実際の交通機関でどのように用いられているのかを考察することで、定着する。必要に応じて、応用課題を使用する。		
成績評価方法	本試験(筆記試験)50%、平常点(グループワーク)25%、平常点(小テスト)25%。		
テキスト	井口紀子『1から出直し書き込み式英会話 BOOK』成美堂出版、2008年 その他、プリント教材や資料などを配布する。		
書籍参考	特に指定しない。授業内で、適宜紹介する。		
事項	授業に集中するのはもちろんのこと、学んだ表現を自ら積極的に反復練習し、間違いを恐れずに実際に用いるように心がけて欲しい。また、普段から、「このような場面ではどのように英語で言えばいいだろうか？」と考え、実際に英語で表現してみたい。		

科目名	サブタイトル	担当教員	配置学年
交通技術論	公共交通を支える工学的技術の基礎を学ぶ	前橋 栄一	2年次前期
講義の目的	主に公共交通に用いられている自動車、船舶、航空、鉄道の構造や動力システムを中心とするメカニズムの技術的変遷や特徴、適用事例などを学び、多様な公共交通事業界に適応できる基礎知識を幅広く学ぶ。どのようなニーズに対してはどのようなシステムが最も適合するか、技術的、コスト的にも配慮でき、考察できる知識を身に付けることを目的とする。		
到達目標	固有の交通システムや運輸形態に留まらない、広い視野での交通連携輸送を模索できる交通人としての素養を持つことを目標とする。技術論であるから簡単な工学的計算や数値換算ができることを目指す。		
講義内容	時代の変化に伴い、公共交通には多様なシステムが発明、考案、選択され、用いられている。これらの技術の多様性や改良・変化過程を解説し、現状での的確性や課題、エネルギーや地域環境への影響度等を述べる。また、公共交通網を形成する上で理想的となる運営や連携、協調性のあり方を学生の皆さんとともに考察してゆく。 鉄道総研での研究開発経験から、鉄道と他交通との連携や構造的比較論にも触れることとする。		
講義スケジュール	第1講	交通機関の発祥 (移動するための技術の考案)	
	第2講	船舶：(船舶の発祥・舟運・運河)	
	第3講	船舶：(船舶の構造・海運)	
	第4講	自動車：(道路交通の発祥・自動車の発明)	
	第5講	自動車：(自動車の最新技術・大型自動車)	
	第6講	鉄道：(鉄道の発祥・車両の基礎構造等)	
	第7講	鉄道：(高速化を支える技術・インフラ設備等)	
	第8講	鉄道：(路面電車・新交通システム・LRT等)	
	第9講	鉄道：(特殊鉄道)	
	第10講	鉄道：(浮上式鉄道)	
	第11講	特殊な交通機関	
	第12講	航空機：(航空以前の空路)	
	第13講	航空機：(航空機の構造等)	
	第14講	デュアルモード交通等と異種交通の連携・協調	
	第15講	まとめ(全講復習)	
方法指導	講義形式を基本とし、ビデオなども活用し、理解の促進をはかる。広域な内容でテキストが無いためプリントを配布する。授業内容のパワーポイントを資料ホルダで閲覧・自習可能とする。		
授業外学習	授業内容のパワーポイントを資料ホルダで閲覧・自習可能とする。希望者に対しては博物館等見学等も実施して実物に触れる学習を行なう。(自由参加) 図書館所蔵の参考文献などからの自習課題に取り組んでもらう。		
成績評価方法	平常点(授業中実施の小テスト)50%、本試験(筆記試験)50%、自習課題内容は期末試験に反映する。		
ステキ	プリントを配布		
書籍参考	「船のすべてがわかる本」「自動車のメカニズム」「電車のしくみ」(ナツメ社)、「航空の時代を拓いた男たち」(成山堂)、「高速鉄道物語」日本機械学会編(成山堂)、「ここまで来た超電導リニアモーターカー」鉄道総研編(交通新聞社)		
事項記	交流のある短大OBの交通界従業者の近況や提供情報も授業内で紹介する。		

科目名	サブタイトル	担当教員	配置学年
交通史	交通システムの歴史的発展	濱 雄亮	2 年次前期
講義の目的	この講義では、交通システムの整備が社会の発展にどのような影響を与えたのかを交通インフラ・輸送手段（鉄道・自動車・船舶・航空機）ごとに紹介していきます。こうした交通システムの歴史的発展を学習することによって、現代の交通システムをより深く理解できるようになることを目的とします。		
到達目標	交通の歴史を理解することによって、現代の交通に関するさまざまな問題に対する自分の考えを言えるようにすることを到達目標とします。		
講義内容	交通システムの整備は、人や物をより速く、より遠くに輸送することを可能とし、地域だけではなく国の発展や国際関係にも大きな影響を与えてきました。この講義では映像資料を使って、交通による社会の発展を学習していきます。現在の交通問題に直結する内容を扱うため、取り上げる時代は 19-20 世紀が中心となりますが、必要に応じて古代・中世・近世の交通システムも扱います。予備知識はとくに必要ありません。		
講義スケジュール	第 1 講	オリエンテーション、自動車 (1) ～首都高速～	
	第 2 講	鉄道 (1) ～産業と鉄道～	
	第 3 講	鉄道 (2) ～鉄道輸送の高速化① (SL から東海道新幹線まで) ～	
	第 4 講	自動車 (2) ～国産乗用車の開発～	
	第 5 講	自動車 (3) ～物流革命 (宅配便) ～	
	第 6 講	鉄道 (3) ～鉄道輸送の高速化② (東海道新幹線) ～	
	第 7 講	鉄道 (4) ～災害と鉄道網～	
	第 8 講	船舶 (1) ～日本における船の役割～	
	第 9 講	船舶 (2) ～船の歴史～	
	第 10 講	鉄道 (5) ～鉄道網を支える技術① (トンネル) ～	
	第 11 講	鉄道 (6) ～鉄道網を支える技術② (自動改札機) ～	
	第 12 講	航空機 (1) ～世界の航空機～	
	第 13 講	航空機 (2) ～日本の航空機～	
	第 14 講	航空機 (3) ～エアラインと空港～	
	第 15 講	総括	
指導方法	講義は紙の資料と映像資料を主に用います。毎回、映像資料を踏まえたコメントカード記入などの授業内課題を課します。なお、「**と聞いて思いつくこと」などをその場で質問し、履修者の答えを講義に生かすこともあるので、積極的に答えてください。		
授業外学習	事前学習として、シラバスに挙げられている項目について事典・書籍・ウェブサイトによって概要を調べて下さい。事後学習として、授業中に紹介した書籍や配布物を読むことや、自ら関連映像資料を探して視聴して下さい。		
成績評価方法	平常点 (授業内課題) : 50%、本試験 (筆記試験) : 50%。		
テキスト	使いません。紙の資料を配付します。		
参考書籍	川勝平太ほか『「交通」が結ぶ文明と文化—歴史に学び、未来を語る—』技報堂出版、2006 年。他にもその都度紹介します。		
事項記			

科目名	サブタイトル	担当教員	配置学年
鉄道史	鉄道の歴史と「文化」・観光	濱 雄亮	2 年次後期
講義の目的	鉄道が日本に導入されてから 150 年近くが経過しました。その間には、技術の革新や社会的位置づけの変遷がありました。また、鉄道が開通することで、観光や仕事や娯楽などの「文化」にもさまざまな影響が及びました。このような鉄道の発達の歴史を理解することと、鉄道の発達と私たちの「文化」が影響を与え合う様子を理解することで、教養ある交通人になることを目指します。		
到達目標	鉄道がどのように発達してきたのか、政治や技術の観点を含めて理解していること。 鉄道の発達に伴う「文化」への影響について理解していること。 いずれも、具体例を挙げて説明ができること。 以上を到達目標とします。		
講義内容	まず、鉄道の日本導入以来の歴史について、政治史や技術史などいくつかの背景と照らし合わせて、具体例に基づいて講義を行います。次に、鉄道と「文化」の影響関係について、鉄道と「初詣」の関係・町おこしと鉄道など観光を中心とした具体例に基づいて講義を行います。最後に、訪日外国人観光客の増加やオリンピック開催を念頭に置き、外国人観光客がもつ日本イメージや「文化」について理解するための視点についても、具体例に基づいて講義を行います。予備知識はとくに必要ありません。		
講義スケジュール	第 1 講	オリエンテーション (授業の趣旨・方針・評価方法の説明など)	
	第 2 講	鉄道の近代史(1) 鉄道導入以前の日本の交通・観光事情	
	第 3 講	鉄道の近代史(2) 鉄道と産業・経済	
	第 4 講	鉄道の近代史(3) 鉄道と対外政策	
	第 5 講	鉄道の近代史(4) 鉄道と技術	
	第 6 講	鉄道と人間(1) 鉄道による観光経験の多様性 (修学旅行・伊勢参宮など)	
	第 7 講	鉄道と人間(2) 鉄道ファンの誕生	
	第 8 講	鉄道の現在(1) 交通事情の変化と鉄道	
	第 9 講	鉄道の現在(2) 情報通信技術と鉄道	
	第 10 講	鉄道の現在(3) 地域社会と鉄道 (近代化遺産・町おこしなど)	
	第 11 講	鉄道と文芸(1) 小説における鉄道の描かれ方	
	第 12 講	鉄道と文芸(2) 映像メディアにおける鉄道の描かれ方	
	第 13 講	鉄道の現代史(1) 戦後復興と鉄道	
	第 14 講	鉄道の現代史(2) 国鉄の諸問題と改革	
	第 15 講	総括	
方法指導	毎回紙の資料を配付して講義形式の授業を行います。映像資料やウェブ上の動画・画像や講師が撮影した写真を映写することもあります。毎回、コメントカード記入などの授業内課題を課します。なお、「**と聞いて思いつくこと」などをその場で質問し、履修者の答えを講義に生かすこともあるので、積極的に答えてください。		
授業外学習	事前学習として、シラバスに挙げられている項目について事典・書籍・ウェブサイトによって概要を調べて下さい。事後学習として、授業中に紹介した書籍や配布物を読むことや、自ら関連映像資料を探して視聴して下さい。		
成績評価方法	平常点 (授業内課題) : 40%、平常点 (レポート) : 15%、本試験 (筆記試験) : 45%。		
テキスト	用いません。紙の資料を配付します。		
参考書籍	老川慶喜『日本鉄道史 幕末・明治篇』中央公論新社、2014 年。同『日本鉄道史 大正・昭和戦前篇』中央公論新社、2016 年。原田勝正『産業の昭和社會史 8 鉄道』日本經濟評論社、1988 年。原田勝正『鉄道と近代化』吉川弘文館、1998 年。他にも随時紹介。		
事項記			

科目名	サブタイトル	担当教員	配置学年
航空論	航空輸送の発展と役割	栗田 善吉	2 年次後期
講義の目的	本講義では、航空機の発達および航空輸送の発展の経緯、さらには、主に長距離の交通市場における航空輸送の現状および役割を理解することを目的とします。また、最近の LCC（ロー・コスト・キャリア）の参入によって、国内線のみならず、国際線の市場にどのようなインパクトがもたらされたか、特に、新幹線との競合がどのように推移しているかを眺めながら、航空会社の経営戦略等を理解してもらいます。		
到達目標	我が国の航空業界および欧米各国の航空業界の現状を理解し、今後の我が国航空産業の展望について考える力を身につける。		
講義内容	今や、日本経済のみならず、世界経済にとっても人や貨物の輸送に欠かすことのできない航空輸送がどのように発展してきたのか、また、航空輸送を支える重要なインフラとしての空港整備および空港経営について、最新の情報も織り込みながら、分かりやすく説明します。特に、航空産業の規制緩和の流れや、新規航空会社の参入や経営統合、さらには、整備新幹線の開業に対抗する経営戦略等について、基礎的な理論も交えて解説します。		
講義スケジュール	第 1 講	オリエンテーション（航空論で学ぶことや講義の進め方の説明）	
	第 2 講	我が国の航空市場の歴史	
	第 3 講	航空産業の規制緩和	
	第 4 講	数字で見る我が国航空市場の輸送動向と新幹線との競合	
	第 5 講	航空運賃の設定とイールドマネジメント	
	第 6 講	我が国航空市場への新規企業の参入とその後の動向	
	第 7 講	航空会社の経営統合の事例と理論的分析（JAL・JAS 統合を例に）	
	第 8 講	航空事故の事例と事故調査体制	
	第 9 講	アメリカの航空政策とコンテスト市場の理論	
	第 10 講	ヨーロッパ諸国の航空政策	
	第 11 講	国際航空市場とオープンスカイ協定	
	第 12 講	我が国の空港整備の歴史と空港設備（航行援助システム等）	
	第 13 講	我が国の空港経営の現状と問題点	
	第 14 講	今後の国内航空市場の展望（LCC の戦略等）	
	第 15 講	まとめと総復習	
方法指導	プリントを配布すると共に、パワーポイントによるスライドを活用しながら講義を進めます。配布するプリントは不完全な内容であり、重要事項について講義を受けながら完全なノートを作成する形式とします。		
授業外 学習	国土交通省の Web サイト内の航空に関する事項について、定期的に関覧すると共に、講義を受けた後、配布プリントに書き込んだ事項も含め、全て自身のノートに書き写して復習することを心掛けて下さい。		
成績評価 方法	評価の方法は、本試験（筆記試験）80%、平常点（レポート）20%で評価します。		
ステキ	毎回、プリントを配布しますので、特に指定しません。		
書籍 参考	井上 泰日子著、「最新 航空事業論（第 2 版）－エアライン・ビジネスの未来像－」、日本評論社、2016		
事項 特記	航空に関するニュースには、日頃から注視するようにして下さい。		

科目名	サブタイトル	担当教員	配置学年
海運論	交通市場での海運の役割	栗田 善吉	2 年次後期
講義の目的	本講義では、国内・国際交通市場における海運に関する基礎的知識として、海運の現状と我が国経済社会における海運の役割、海運事業の仕組みについて理解すること、さらに、交通市場全体が抱える問題点を整理・理解したうえで、今後の海運事業のあり方について、自らの意見を述べられるようになることを目的とします。		
到達目標	日頃、身近に接することが少ない海運事業について、我が国経済活動における重要性について理解する。		
講義内容	一口に海運（海運事業）といっても、内航海運と外航海運、人の輸送と物資（貨物）の輸送といった分類ができます。本講義では、内航海運（国内輸送）、特に貨物の輸送に重点を置いて、海運の果たす役割、海運事業の仕組みや現状について、最新の情報や事例を交えて、分かりやすく説明します。また、海運を支える港湾の問題についても基本的な事柄を説明します。		
講義スケジュール	第1講	オリエンテーション（海運論で学ぶことや講義の進め方の説明）	
	第2講	内航海運と外航海運について	
	第3講	船の種類と役割（定期船、不定期船、タンカー、LNG 船、自動車運搬船）	
	第4講	内航海運の現状（規制と輸送実績等）	
	第5講	カボタージュ規制について	
	第6講	内航フィーダー輸送について	
	第7講	静脈物流と内航海運について	
	第8講	内航海運暫定措置事業について	
	第9講	モーダルシフトについて（環境問題との関係を踏まえて）	
	第10講	地域公共交通としての海運事業（旅客船について）	
	第11講	外航海運について	
	第12講	外航海運と我が国の貿易について	
	第13講	港湾の運営と港湾政策について	
	第14講	今後の海運の展望（国の海運政策の展望）	
	第15講	まとめと総復習	
指導方法	プリントを配布すると共に、パワーポイントによるスライドを活用しながら講義を進めます。配布するプリントは不完全な内容であり、重要事項について講義を受けながら完全なノートを作成する形式とします。		
授業外学習	海運事業、特に貨物の輸送は、わが国と海外との貿易と密接な関係にあります。日本はどのような物を輸出し、どのような物を輸入しているか、基礎知識として学んでおいて下さい。		
成績評価方法	評価の方法は、本試験（筆記試験）80%、平常点（レポート）20%で評価します。		
テキスト	毎回、プリントを配布しますので、特に指定しません。		
参考書籍	森 隆行編著「内航海運」晃洋書房、2014。 国土交通省海事局「海事レポート2018」日本海事広報協会。		
特記事項	比較的関心が薄いと思われる海運ですが、わが国の貿易や物流と密接な関係にあること、環境にやさしい交通機関でもあり、海運の役割は大きいと言えます。こうした観点から、海運事業について、積極的に学ぶ姿勢で受講して下さい。		

科目名	サブタイトル	担当教員	配置学年
物的流通論	経済、生活を支える物流の仕組みを考える。	洪 京和	2 年次前期
講義の目的	物流は経済活動、産業活動に連動しているだけでなく、われわれの生活に密接にかかわり、支えている。私達がコンビニエンスストア等でいつでも欲しい商品を欲しいだけ買うことができるのは、物流が高度化した結果である。物流、ロジスティクスとは何か。物流機能、物流管理、サプライチェーンマネジメントについて総合的・体系的に考える。さらに労働力不足問題等の物流を取り巻く環境変化について、どのような対応を迫られているかについて考える。		
到達目標	経済活動、産業活動、われわれの生活を支える物流についての理解を深め、その重要性について習得することを目的とする。企業における実際の物流の考え方、物流システムについて説明できることを目標とする。さらに、企業の物流システムがどのように展開しているのかを習得することを目的とする。企業の物流システムについて、各業種の違いも含めて、説明できることを目標とする。		
講義内容	物流機能、物流の構成要素、物流管理の基本的な考え方、さらにロジスティクス、サプライチェーンマネジメントの進展について説明する。また、労働力不足問題、交通安全問題、環境問題、災害時対応等についてどのような対応を迫られているかを説明する。近年、企業において、物流システム構築は、経営戦略の重要な柱となっている。メーカー、卸売業、小売業、物流業における物流システム、高度化の動向について、企業事例も含めて説明する。さらにネット通販の進展、買い物弱者問題で重要となっているラストワンマイル物流について説明する。		
講義スケジュール	第1講	講義の進め方、物的流通、ロジスティクスとは何か	
	第2講	物流の領域と物流管理の考え方	
	第3講	輸送システムー多様な輸送手段	
	第4講	保管・在庫管理システム	
	第5講	物流と情報システム	
	第6講	物流、ロジスティクスの考え方の変遷	
	第7講	労働力不足問題と物流	
	第8講	交通安全問題と物流	
	第9講	環境問題と物流	
	第10講	災害時対応の物流	
	第11講	メーカーの物流システム	
	第12講	小売業の物流システム	
	第13講	卸売業の物流システム	
	第14講	物流業の現状と物流サービス	
	第15講	ネット通販の進展と物流	
方法指導	毎回、プリントを配布します。パワーポイントに従って説明します。時間中の退出は禁じます。毎回小テストを実施します。		
授業外学習	毎回授業前に掲載するレジュメに目を通すこと。授業後は授業内容を復習すること。		
成績評価方法	本試験（筆記試験）70%、平常点（小テスト）30%		
ステキ	特に指定しない。		
書籍参考	齊藤実、矢野裕児、林克彦『物流論』中央経済社。		
事項記			

科目名	サブタイトル	担当教員	配置学年
鉄道基礎	鉄道の全体を知る	中島 麻紀	1年次後期
講義の目的	鉄道が日々事故無く定時運行できるのはどうしてなのか、そのしくみについて考えます。また、鉄道に従事する人はどのような資質が必要かも考えていきます。鉄道に関する知識の習得に重点を置くのではなく、仕組み、ルールや手順について、どうしてそのようになっているのかと疑問を持ち、自ら考える力をつけることを最大の目的とします。		
目標到達	<ul style="list-style-type: none"> ・物事に対する考察力を養う ・社会人に必要な社会性、人間性を身につける ・文章を書く力をつける 		
内容講義	鉄道についての知識がないことを前提に授業を行います。予備知識は不要です。車両、施設、運転ルールや従事する人も含めた鉄道全体の基礎的なしくみについて幅広く学習します。まずは教室授業で知識を習得します。その後、施設を用いて班ごとの実習を行うことで、授業で学んだ知識の確認をします。		
講義スケジュール	第1講	<概論>ガイダンス、鉄道とは、鉄道の安全と法令との関係	
	第2講	<運転>列車と車両、信号・合図・標識	
	第3講	<運転>閉そく(列車同士が衝突しない運転のしくみ)、駅での信号取扱い、併発事故の防止	
	第4講	【実習1】乗務員訓練講習(運転士編)異常時の対応	
	第5講	【実習2】乗務員訓練講習(車掌編)異常時の対応	
	第6講	乗務員訓練まとめ、事故から学ぶ(三河島事故)	
	第7講	<車両>車両の構造、車両における電気と圧縮空気	
	第8講	<車両>主回路(モーターを稼働させる回路)、主制御器(主回路をオン・オフする機器)	
	第9講	<車両>ブレーキのしくみ、ATS(自動的に列車を停止させる保安装置)	
	第10講	【実習3】駅での信号取扱い、信号のしくみ	
	第11講	【実習4】101系車両の主回路	
	第12講	<施設>線路・電車線路(車両に電気を供給する電線類)の構造と技術の進歩	
	第13講	【実習5】ATSの作動	
	第14講	【実習6】ブレーキのしくみの違い、信号機故障時の取扱い	
	第15講	機器やコンピュータの発展と人との関係、社会人を見据えどのような自分になるべきか考える	
方法指導	教室授業と班(6~9人)で行う実習で授業を進めていきます。また、班で課題解決を行うグループワークも取り入れます。講義ごとにレポート(報告書)を課します。		
授業外学習	事前学習として、テキストの関連項目に目を通しておいてください。事後学習として、レポートの作成を行うことで授業を振り返り、学んだことが実際にどの場面で使われているかを考えます。インターネットやSNSの情報に踊らされることなく、社会情勢や物事のしくみについて深く考え、自分の意見をもつことを日頃から意識してください。		
成績評価方法	本試験(筆記試験):20%、平常点(授業内課題):60%、平常点(発表・発言):10%、平常点(グループワーク):10%		
テキスト	曾根悟監修『電車のしくみ』マイナビ出版・2016年発行		
書籍参考	『鉄道六法』第一図書、『鉄道のしくみと走らせ方』かんき出版、『分かりやすい鉄道技術概論・電気編』鉄道総合研究所		
事項特記	施設の都合上、受講定員を18名とします。施設の使用状況により、講義内容や順番に変更の可能性があります。		

科目名	サブタイトル	担当教員	配置学年
交通政策論	なぜ政府・地方自治体は交通に関与するのか	藤井 大輔	2年次前期
講義の目的	政府・地方自治体は、私たちの日常生活に関わる交通について深く関与している。「どうして、政府・地方自治体は交通に関与しているのか」という問いに、ミクロ経済学をベースとした交通経済学を分析ツールとして解いていき、現実に展開されている交通政策がどのような施策なのか、理解を深め、交通事業への従事を志望する者として基礎的な交通政策に関する知見を習得することを目的とする。		
到達目標	「どうして、政府・地方自治体は交通に関与しているのか」という問いとともに、現実に展開されている交通政策がどのような施策なのかについての知見を習得し、それを基に、「どのような交通政策がより望ましいと考えるか」という交通政策のあり方について、議論できるような知識を自分自身のものとして習得することができる。		
講義内容	政府・地方自治体が交通に関与している理論的根拠を、経済学をベースに学ぶ。そのうえで、交通政策基本法を柱とした国全体の交通政策、地域公共交通活性化再生法などに基づき地方自治体が行っている交通政策の実例を考察する。また、交通は社会福祉やまちづくり・都市計画とも密接に関わっていることから、これらの側面からも交通政策を取り上げる。15回の講義を通じて、人口減少社会の交通政策のあり方を考えていく。		
講義スケジュール	第1講	交通サービスの特徴（交通事業の基本）	
	第2講	経済的規制（1）：伝統的な運賃理論	
	第3講	経済的規制（2）：運賃規制の改革	
	第4講	社会的規制：安全と保安のための規制	
	第5講	政府・地方自治体から交通事業への補助	
	第6講	政府・地方自治体の交通事業経営への関与	
	第7講	交通社会資本を整備する方策	
	第8講	交通需要を予測する方法	
	第9講	『交通政策白書』を読む	
	第10講	整備新幹線開業による JR 並行在来線の第三セクター鉄道への転換	
	第11講	地域公共交通活性化・再生法～鉄道事業の上下分離策を事例に～	
	第12講	新しい技術実用化による地域公共交通の活性化	
	第13講	人口減少下におけるまちづくりと交通政策～コンパクトシティ政策～	
	第14講	交通政策基本法	
	第15講	まとめ：今後の交通政策のあり方	
方法指導	本試験だけでなく、課題レポートも課して、交通政策について理解を深めていく。		
授業外学	初回を除いて、講義終了前に次回の予告を説明するので、その予告に基づいて、参考書に挙げた書籍などで未習の用語などを理解しておくことを事前学習とする。また、事後学習は、講義で取り上げた事例以外の事例について自分で調べ、まとめることを通じて、より交通政策への理解を深めていく。		
成績評価	本試験（筆記試験）60%、平常点（レポート）40%、計100%で成績評価する。		
ステキ	使用しない。毎回、レジュメ（プリント）を配布する。このレジュメはファイルに綴じておくのが望ましい。		
書籍参考	国土交通省、『交通政策白書』（Web版）、逐年。日本交通学会編、『交通経済ハンドブック』、白桃書房、2011年。藤井彌太郎監修・中条潮・太田和博編、『自由化時代の交通政策 現代交通政策2』、東京大学出版会、2001年。		
事項記	1年次に「交通概論A」、「交通概論B」、「交通事業論」を履修しているのが望ましい。ただし、これらの科目の履修を、この科目履修の条件とはしない。		

科目名	サブタイトル	担当教員	配置学年
世界の鉄道研究	世界の鉄道はいかに発達 あるいは衰退してきたのか	櫻井 寛	2年次後期
講義の目的	鉄道は約190年前にイギリスで発明され、現在では世界140か国に鉄道が走っています。2本のレール上を走るところは共通ですが、その内容たるや140種類あると言えます。各国の気象、風土、習慣、文化、経済、宗教、国民性の違いなどによって140通りの鉄道が生まれたわけです。各国の鉄道事情を学ぶことは、国際的な一般教養を高めることにも繋がります。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・鉄道の発明、発達に寄与した国と人物を理解する。 ・ゲージ(軌間)の差による各国の鉄道の歴史を理解する。 ・高速鉄道を保有する現代の鉄道先進国を理解する。 		
内容講義	イギリスにおける鉄道の発明と発達史。日本に鉄道という文明をもたらした欧米諸国。一方、日本の鉄道技術が輸出されたアジア諸国、近年では欧米諸国への輸出など、我が国と密接な関係にある国々の、鉄道の歴史、現状、文化、技術、システムなどを学び検証します。		
講義スケジュール	第1講	オリエンテーション	
	第2講	イギリス(鉄道発祥の国)	
	第3講	アメリカ(世界最大の鉄道路線網)	
	第4講	ドイツ(電化、ディーゼル化の先進国)	
	第5講	フランス(世界最高速を目指す)	
	第6講	イタリア(デザインで世界をリード)	
	第7講	スイス(登山鉄道王国)	
	第8講	中国(疑問点の残る鉄道技術)	
	第9講	韓国(フランス製KTX)	
	第10講	台湾(日本製700T型)	
	第11講	ロシア(世界最長のシベリア鉄道)	
	第12講	オーストラリア(ゲージ論①)	
	第13講	南アフリカ、ニュージーランド(ゲージ論②)	
	第14講	インド、東南アジア(ゲージ論③)	
	第15講	まとめ ヨーロッパ高速鉄道	
方法指導	講師撮影の最新鉄道画像とテキストを用い講義形式で展開する。 学生諸君による各自の「世界の鉄道研究」の成果を発表し討論する。		
学習授業外	当授業では、15時限でおよそ15カ国の鉄道について学びます。その中で興味を抱いている国(日本を除く)を1か国以上選び、その国の鉄道について、新聞、雑誌、書籍、インターネットなどで事前に予習し、その成果を該当する授業で発表すること。		
成績評価方法	本試験(筆記試験、持込可)50%、平常点(課題レポート)50%で成績評価する。		
テキスト	櫻井 寛[2017]『世界鉄道切手夢紀行』(日本郵趣出版)		
書籍参考	[2015]『世界の鉄道』(ダイヤモンド・ビッグ社) [2015]『憧れの鉄道入門』(幻冬舎) [2017]『ヨーロッパ時刻表』(ダイヤモンド・ビッグ社)		
事項特記	国内外、距離の長短を問わず、鉄道旅行を大いに経験してください。		